

平成 22 年度は、各坑内水及びズリ堆積場滲出水の水質分析、流量・水質観測を行うとともに、石灰石による坑廃水の中和試験、表面流型及び浸透流型の形式が異なる 2 つの人工湿地による坑廃水の浄化試験を実施した。

表面流型及び浸透流型の人工湿地における重金属等の除去能力については、昨年までと同様に一定の効果が確認されており、平成 22 年度も効果が持続されていることを確認した。

#### 4. 2 空知管内地質地下資源調査

(担当)：廣瀬 亘・川上源太郎・大津 直・石丸 聡・鈴木隆広・田近 淳

空知総合振興局管内における農業農村整備事業では、丘陵地の地質データや地すべり・活断層などの地質リスク、近年に実施された地盤ボーリングデータの活用、水井戸ボーリングや温泉ボーリングに関する情報、農地再編に関する低地の詳細地形データなど新たな地質ニーズが発生している。これらのデータを収集解析して編纂することにより、農業農村整備事業の円滑な推進に資することを目的とする。今年度は空知地方南部において、現地地形地質調査に加え、空中写真判読、古地形図の地理学的解析を行い、表層地質図を作成した。新たに収集・電子化した 817 本のボーリングデータに基づき、泥炭等層厚線図、軟弱地盤等層厚線図を作成した。調査地域について、学術的用語を極力廃した地質説明書を執筆した。あわせて、電子化したボーリングデータについては空知地盤情報管理システムに登録を行った。

これにより、データ密度の低い地域が大きく減少し、従来よりも高精度で表層地盤断面の評価を行うことが可能となった。特に、泥炭および軟弱地盤の地下における層厚分布は、既存資料で示されていた分布とは大きく異なり低地の地下に埋没する古千歳川・古夕張川などの旧河道が形成した最終氷期末期の埋没谷などの地形に大きく規制されていることが判明した。